

調査開始時の '78年は大きさが1.05~1.40 cm、平均で1.23 cm (1.23±0.11 cm) であったが、4年後には、6.90~8.00 cm、平均で7.43±0.45 cmとなった。本調査地点での年平均成長量は、初めの3年間は1.61、1.84、1.70 cmでほぼ等成長を示したが、今年度は1.05 cmとなり鈍化傾向を示した。

3. ヒメジャコの放流効果調査 (放流技術開発試験)

調査 I の調査地点 A、B、C、D、E の各地点に、1979年 (昭和54年) に種苗生産し、1980年 (昭和55年) 5~6月 (1区のみは7月) に「埋め込み」法で放流した個体に関して、2年後の残存数を調べた。

結果は表1にヒメジャコの残存個体数を、表2にその成長量を示した。

表1 調査 I のヒメジャコ残存個数

調査地点 調査月	A	B	C	D	E
1980.5~6	25	18	36	40	20
1980.10	15	4	2	12	5
1981.6	15	3	2	8	5
1982.6	15	3	2	4	4

表2 調査 I のヒメジャコ残存個体の成長量

調査地点 調査月	A	B	C	D	E
1980.5~6	0.31~0.68 0.48±0.09				
1981.6	1.45~2.35 1.88±0.22	1.45~1.60 1.53±0.06	1.40~1.50 1.45	1.45~2.35 1.80±0.34	1.85~2.35 2.00±0.18
1982.6	3.20~4.60 3.76±0.38	2.40~2.70 2.58±0.13	2.50~3.40 2.95	3.45~4.30 3.89±0.41	3.60~4.60 4.00±0.39

(cm) 上段：測定範囲

下段：平均値及び標準偏差

1981年 (昭和56年) の調査時残存数を基準にすると、st.A では15個体がそのまま残っており、残存率は100%であった。st.Bでは3個体で同じく100%、st.Cは2個体で100%、st.Dは4個体で50%、そしてst.Eは4個体で80%であった。また、その成長量は平均で、1981年の1.82±0.28cm ($\bar{n}=33$) から1年間で3.63±0.57cm ($\bar{n}=28$) となり1.81cm成長した。

調査 II

1981年6~7月に殻長約0.25~0.5 cm、平均0.38±0.09 cmの稚貝を「地まき」と「埋め込み」の折衷法で放流した分について、1982年に調査した。ハマサンゴ上では比較的良く残っていた。しかし、琉球石灰岩上では砂の堆積等が激しく残存率は悪かった。成長は場所によりバラつきがあるが、1年間で、0.38 cmから1.63 cmとなり、成長量は1.25 cmであった。